

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立石薬師高等学校）

1 目指す姿

| | | |
|------------|---------------|--|
| (1) 目指す学校像 | | ○自主・・・自ら努力して学び、自分の進路を自分で切り拓く生徒を育てる学校 |
| | | ○創造・・・地域から信頼され、強い責任感を持ち、将来の社会に貢献する生徒を育てる学校 |
| (2) | | ○敬愛・・・笑顔にあふれ、人を思いやる豊かな人間性を持つ生徒を育てる学校 |
| | | ○育みたい 児童生徒像 |
| (2) | 育みたい 児童生徒像 | ○学習することの意義を理解し、主体的に学習に取り組むことができる生徒 |
| | 育みたい 児童生徒像 | ○自己の進路についてしっかりと考え、その実現に向けて努力する生徒 |
| (2) | 育みたい 児童生徒像 | ○豊かな人間性を身につけ、将来、社会の一員として責任感を持って貢献できる生徒 |
| | 育みたい 児童生徒像 | ○互いに声を掛け合い、協力し合って、「チーム」として教育活動に取り組む教職員 |
| (2) | 育みたい 児童生徒像 | ○一つひとつの授業を大切に、研鑽を重ねて、授業力向上に取り組む教職員 |
| | 育みたい 児童生徒像 | ○生徒に寄り添い、笑顔と元気を絶やさず、丁寧に粘り強く生徒の指導に取り組む教職員 |

2 現状認識

| | | |
|-----------------------------|---|--|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | <p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 希望の進路を実現するために必要な能力（学力、コミュニケーション力など）を身につけたい。 学習だけでなく、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事や部活動等でも充実した高校生活を送りたい。 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもがしっかりと学習し、希望の進路を実現するよう指導してほしい。 いじめや暴力がなく、必要な支援を受けながら、子どもが安心して学ぶことができる学習環境を提供してほしい。 | |
| | <p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校と連携するために、学校での子供の様子等を教えてほしい。安心して子供を預けられる学校になってほしい。 <p><地域及び地元企業></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習に誠実に取り組み、卒業後は地元で活躍する生徒を育ててほしい。 生徒が基礎的な学力や社会人として必要な資質を身につけられるように指導してほしい。 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> 義務教育段階での学習内容の定着が不十分な生徒もいるが、基礎・基本をしっかりと指導して、進路希望を実現させてほしい。 <p><杉の子特別支援学校石薬師分校></p> <ul style="list-style-type: none"> 本校と杉の子特別支援学校石薬師分校（以下、「石薬師分校」という。）の生徒が交流することを通じて、両校の生徒の人格形成や成長につなげたい。 <p><関係機関（警察、児童相談所、SSW、SCなど）></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の安全・安心な学校生活のために連携を密にしてほしい。 | <p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の指導方針を理解し、保護者も生活習慣や服装等の指導をしてほしい。 <p><地域及び地元企業></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が卒業後に地元で就労し活躍できるよう、雇用の拡大に努めてほしい。 インターンシップの受け入れなど、学校との連携・協力を推進してほしい。 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生活に必要な基礎的な学力や基本的な生活習慣を身につけさせてほしい。 生徒が高校生活を順調にスタートできるよう、情報共有を密にしてほしい。 <p><杉の子特別支援学校石薬師分校></p> <ul style="list-style-type: none"> 本校に在籍する特別な支援を必要とする生徒の指導について、専門的な視点からの指導、助言をしてほしい。 <p><関係機関（警察、児童相談所、SSW、SCなど）></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の安全・安心な学校生活を確立するために、連携を密にし、協力してほしい。 専門的な見地からの指導や助言をしてほしい。 |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | | |

| | | |
|------------------|-------|--|
| (3) 前年度の学校関係者評価等 | | <ul style="list-style-type: none"> ・さわやかに挨拶をかわすなど、地域住民と交流できる生徒の育成を図り、地域に根ざした学校を目指す必要がある。 ・インクルーシブ教育を基礎に、引き続き、基礎学力の向上を図るとともに、新しい学校像の創造に向けてチャレンジすることを検討していく必要がある。 ・教職員が授業力に加えて、チームワークやコミュニケーション力を向上させ、風通しのよい職場環境をつくるとともに、ワークライフバランスの確立を図る必要がある。 |
| (4) 現状と課題 | 教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習態度等は、落ち着いてきてはいるものの、学力は多様であり、学習習慣が十分に身につけていない生徒が見られることから、「わかる授業」を通じて、学ぶ楽しさを実感し、学習の仕方をつかむことができる授業づくりへの継続的な取り組みが必要である。 ・生徒の家庭環境や生活背景が多様であることや、特別な支援が必要な生徒もみられることから、すべての生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等とも連携を図り、教職員が「チーム石高」として、生徒一人ひとりとしっかりと向き合い、サポートする必要がある。 ・進路実現についての意識が希薄な生徒や進路希望を実現するために取り組むべき方向性について明確な考えを持たない生徒も少なくないことから、生徒一人ひとりが進路実現に向けて自ら考え、取り組むことができるよう、3年間を見通したキャリア教育の充実に努める必要がある。 |
| | 学校運営等 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、学習面、生活面などあらゆる教育活動を通じて、生徒に対してきめ細やかな指導を行い、また工夫改善にも取り組むことで、成果が上がりつつある。一方で、働き方改革の観点からも、業務の整理や効率化等による総勤務時間の縮減に向けた具体的な取組が必要である。 ・杉の子特別支援学校石薬師分校と同じ校舎、校地を使用していることは、他校にはない強みであることから、両校の生徒の成長に資するために、それぞれが持つ教育の専門性や機能を生かした取組ができるよう、指導のノウハウを共有するなど、より一層、交流を推進する必要がある。 |

3 中長期的な重点目標

| | |
|-------|---|
| 教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会で必要とされる基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、生徒が学習することの意義を理解し、主体的に学習に取り組むことができるよう、個に応じたきめ細かな指導を引き続き充実する。 ・生徒が、人や地域との関わりの中で、他者への優しさや思いやり、生命の尊さや人権を尊重する心、感謝の心など、豊かな人間性を身につけ、将来、社会の一員として貢献することができるよう、教育活動全般を通じて心の教育を進める。 |
| 学校運営等 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導や生徒指導、進路指導など、学校のすべての教育活動において、教職員が一体となって取り組むことができるよう、また、教職員全員がやりがいを持って職務を遂行できるよう、日常から互いに声を掛け合い、協力し合うとともに、教職員同士が知識、ノウハウ等を共有し、互いに教え合い、高め合うなど、「チーム力」の高い集団づくりを行う。 ・生徒及び教職員が快適で充実した学校生活を送ることができるよう、積極的に校内、学校周辺や通学路の美化活動、環境整備に努める。 |

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|--|--|---|----|
| 授業力の向上・学習指導の充実 | <p>(1) 授業の始めに、「教科書のページ」「授業のねらいと目標」を黒板に明示するなど、生徒に見通しを持たせるなど、ユニバーサルデザインの視点に基づき、教職員全員が共通理解のもとで統一したスタイルで進めることにより、生徒が安心して授業を受けることができるしくみづくりを進める。</p> <p>(2) 課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)等の手法を授業の中に取り入れ、生徒一人ひとりが授業で活動したことを実感できる授業づくりを進める。</p> <p>(3) 授業力向上週間を設定し、授業公開及び教職員相互の授業見学と授業研究による授業力の向上を図る。</p> <p>【活動指標】授業の始めに授業のねらいと目標を明示するなど見通しを示している教職員の割合 100%</p> <p>【活動指標】教職員一人あたりの授業見学の回数 1回以上</p> <p>【成果指標】学校満足度調査で授業内容の理解について肯定的な回答をした生徒の割合 70%</p> | <p>・今年度は、4/5より5月末まで新型コロナウイルス感染症の影響によって休校となった。例年行っている授業改善の取組(学校公開、授業改善週間)が実施できなかった。</p> <p>・6月からの学校再開後は、本校で受け継いでいる「インクルーシブ教育システムを取り入れた授業づくり」を校内研修で確認して実施するよう申し合わせた。</p> <p>・授業改善の取組としては、校内教職員間で見学し合う「授業力向上週間」を行った。そのうち、一つの教科について授業研究会も開催した。ただし、その会は有志教員の取組であり、全教職員の取組とはなり切れていない。</p> <p>(本年度の状況)</p> <p>・授業のねらい・見通しを提示している …97.0%</p> <p>・授業見学に参加した教職員…74.8%</p> <p>・学校満足度調査で授業内容の理解について肯定的な回答をしている生徒の割合…85.2%</p> | ◎ |
| 生徒指導の充実・豊かな人間性を育む教育の充実・命の尊さを理解しいじめのない学校の実現 | <p>(1) 生徒の髪型や服装等の指導方針について、教職員が共通理解し、生徒にとってわかりやすい指導を進めることで、生徒の規範意識を高める。</p> <p>(2) 明るくさわやかなあいさつを自ら行う学校づくりを進める。</p> <p>(3) 「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」を活用し、生徒への声のかけ方など一致した考え方で指導にあたり、生徒の心の成長を促進する。</p> <p>(4) 模範生徒表彰制度を継続し、真面目に努力する生徒を激励するとともに、生徒の意識の醸成を図る。</p> <p>(5) 生徒同士が、お互いの人権を尊重し、思いやりの心を持っていじめのない安心した学校生活を送れるよう、きめ細かな観察と支援に努める。</p> <p>【活動指標】模範生徒表彰の実施 3回</p> <p>【成果指標】学校満足度調査で学校生活の安心感について肯定的な回答をした生徒の割合 80%</p> | <p>・年間を通じて、本校の強みとしての、生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細やかかつ粘り強い生徒指導・支援に努めた。</p> <p>・良い行動をした生徒に与えるブルーカード制度が定着しており、生徒への表彰を通して、生徒たちが安心して生活できる学校づくりに向けて取り組んでいる。</p> <p>・全県的な流れを受けて、本校の生徒指導指針「生活の手引き」の内容について検証し、保護者や学校関係者評価委員等から意見をいただいたり、全教職員での意見交流を行ったりするなどして改訂した。</p> <p>・いじめ、ならびに生徒が抱える不安や悩みについて、生徒の様子をよく見て適時担任等で面談を行った。(学校全体としても個別面談を例年より多く実施した)</p> <p>・生徒同士による人間関係のトラブルが生じたことも複数事案生じ、その度に生徒にカウンセリングマインドで寄り添いながら指導にあたっている。引き続き生徒が安心できる学校づくりに努めなければならない状況にある。</p> <p>(本年度の状況)</p> <p>・「模範生徒表彰」を行った回数…2回</p> <p>・学校満足度調査で学校生活の安心感について肯定的な回答をした生徒の割合…79.3%</p> | ◎ |
| キャリア教育(進路指導) | <p>(1) 生徒が自己の進路についてしっかりと考えることができるよう、必要な情報提供を行うとともに、きめ細かな相談体制を構築する。</p> <p>(2) すべての生徒が希望する進路を実現できるよう、「サクラサク・プラン」の内容を充実・活用し、系統的なキャリア教育、進路指導を実践する。</p> | <p>・昨年度末から5月末まで続いた臨時休校、また、就職試験に関する日程が全国規模で流動した状況にあつて、年間計画を大きく変更せざるを得ず、当初予定していた進路諸行事が行えないなど、計画通りに進めることが難しかった。</p> <p>・そうした中で、個に応じた生徒への支援・指</p> | ◎ |

| | | | |
|--|---|---|--|
| | <p>【活動指標】個別・三者面談の実施 4回</p> <p>【成果指標】学校満足度調査で目的意識の有無について肯定的な回答をした生徒の割合 80%</p> | <p>導を行ったり、企業・事業所との信頼関係に努めたりするなどして、3 学年の進路決定について全員が成し遂げた。</p> <p>(本年度の状況)</p> <p>・個別面談・三者面談の実施…4 回</p> <p>・学校満足度調査で高校進学の目的について肯定的な回答をした生徒の割合…80.1%</p> | |
|--|---|---|--|

改善課題

- ・本校では、様々な要因を背景に生徒一人ひとりについて個別的な対応が求められることが多い。そうした状況にあって、学校全体として一斉に行う取組をつくるのが今後の課題である。
- ・本年度は新学習指導要領の対応・オンライン授業の実施・ICT 環境の整備などの状況もあって、授業改善について研修する機会を多く得て、教職員間の意識も高まった。これらを契機として、生徒たちの進路実現のために必要な力を育むための教育活動の展開を、今後も引き続き考えたい。

(2) 学校運営等

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|-----------------------------|--|---|--------|
| 教職員のチームワークの向上と不祥事を許さない職場づくり | <p>(1) 教職員が互いに声を掛け合い、協力し合って教育活動に取り組む職場環境をつくる。</p> <p>(2) 管理職や経験豊富な教職員が教えるのではなく、職場みんなで互いに「学びあえる」職場風土を創りあげる。</p> <p>(3) 学年・分掌の枠を超えて、学校環境の改善、教職員の資質の向上について話し合う。</p> <p>(4) 学年ごとの授業担当者会議を開催し、生徒の状況について情報共有を図る。</p> <p>(5) 継続的なコンプライアンスミーティングや振り返りを実施し、教職員の不祥事を許さない風土を醸成する。</p> <p>【活動指標】学校環境の改善等について、学年・分掌の枠を超えて話し合う学校向上委員会の開催 10 回</p> <p>【成果指標】教職員を対象にしたアンケートにおいて、教職員のコミュニケーションが図れているということについて肯定的な回答をした教職員の割合 100%</p> | <p>・学校休校期間を活用して、教職員どうして話し合うグループ討議・オフサイトミーティングを例年より多く持つことができた。</p> <p>・コンプライアンスの順守については、グループ討議を行いながら、チェックリストに取り組むなど、当事者意識の向上につなげる取組を実施した。</p> <p>(今年度の状況)</p> <p>・「向上委員会」の開催…9 回</p> <p>・教職員アンケートにおいて、教職員のコミュニケーションが図れていると肯定的な回答をした教職員の割合…84.9%</p> | ◎ ◎ |
| 保護者、地域、中学校等との連携 | <p>(1) 学校での生徒の様子、生徒の家庭等での状況について、保護者との連絡・情報交換を密にする。</p> <p>(2) 保護者あて配布物の用紙を黄色にする工夫を行うなど、学校からの情報を確実に届けるとともに、生徒、保護者にとって、わかりやすい情報提供に努める。</p> <p>(3) 地元での就職希望を実現するため、地域や地元企業が望む人材等についての情報交換を行うなど、連携を図る。</p> <p>(4) 生徒が本校入学後に順調に高校生活のスタートを切ることができるとともに、途切れることなく必要な配慮や支援をできるよう、中学校等との情報共有を密にする。</p> <p>【活動指標】保護者懇談の実施回数 2回</p> <p>【活動指標】家庭連絡を密にしていると回答した教職員 100%</p> <p>【成果指標】保護者対象アンケートで学校の様子がわかることについて肯定的な回答をした保護者の割合 75%</p> | <p>・保護者に対しては、日常から速やかな電話連絡や家庭訪問等を通じて意思疎通・情報共有に努めている。学校休校期間には、一斉メールを活用して例年より多く情報伝達を行うこととなった。</p> <p>・キャリア教育プランの一環として、地元企業・事業所、各種学校、また出身中学校と連携を密にして、生徒の進路実現に努めた。</p> <p>(今年度の状況)</p> <p>・保護者懇談の実施回数…3 回</p> <p>・家庭連絡を密にしていると回答した教職員…57.6% (注:クラス担任については 100%)</p> <p>・保護者アンケートで学校の様子がわかると肯定的な回答をした保護者の割合…66.9%</p> | ◎ ◎ |

| | | | |
|--|---|---|----------|
| <p>教職員が働きやすい環境づくり</p> | <p>(1) 教職員が心身の健康を維持し、意欲的にかつ、ゆとりを持って教育活動に取り組めるよう、時間外労働時間を削減し、年次有給休暇の取得を促進するなど、総勤務時間の縮減を図るための具体的な取組を進める。</p> <p>(2) 管理職と教職員が、相互に協力し、職場の実情に応じた取組を積極的に講じるよう努める。</p> <p>【活動指標】定時退校日の設定 月あたり2日 【活動指標】部活動休養日の設定 週あたり1日 【活動指標】放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合 80% 【成果指標】一人あたりの年間休暇取得日数 一人あたり年間1日分の増加 【成果指標】月45時間を超える時間外勤務労働者数 0人 年間360時間を超える時間外勤務労働者数 0人 【活動指標】学校環境の改善等について、学年・分掌の枠を超えて話し合う学校向上委員会の開催(再掲) 10回</p> | <p>・教職員の総勤務時間の縮減については、会議の精選や年休取得の促進等に努めたが、新型コロナウイルス感染症に関する学校対応が生じたことで、時間外労働が月 45 時間を超える教職員を出してしまった。</p> <p>(今年度の状況) ・定時退校日設定…毎月1～2回 ・部活動休養日の設定…全クラブが週あたり1日以上実施 ・一人あたりの年間休暇取得日数 …18.9日(1月末時点) ・月 45 時間を超える時間外勤務労働者数 …3人(1月末時点) ・年間 360 時間を超える時間外勤務労働者数 …0人(1月末時点) ・学校環境の改善について、分掌・学年の枠を超えて話し合う学校向上委員会の開催数…9回</p> | <p>◎</p> |
| <p>改善課題</p> | | | |
| <p>・毎年教職員数が減少している中、業務の精選に努めているものの、一部の教職員に業務が偏りがちになっている状況がある。校務分掌の在り方を見直し、業務分担の平均化ができればよいと考えるが、少ない人数の中で分掌構成がさらに難しい課題となっている。</p> | | | |

5 学校関係者評価

| | |
|----------------------------|--|
| <p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・以前と比べて少しずつ学校に対する地域・中学校からの評価が向上している状況がある。転学・退学などの進路変更をする生徒の数も減っているなど、学校全体に落ち着きが見られるようになってきた。そのような状況であるからこそ、授業や部活動、ボランティア活動などの校外にも発信できるような取組を進めて、学校にさらなる活気を醸成してほしい。 ・厳しい社会状況がある中で、進路指導（特に就職において）で結果を出した。キャリア教育は石薬師高校としての強みではないか。今後も、「サクラサク・プラン」を基盤としつつ、生徒に対するきめ細やかな指導を継続してほしい。 ・校則の改定については、時勢から理解できる場所であるが、生徒の生活態度についてはしっかりと指導していただき、学校としての評価の向上につなげてほしい。 ・保護者懇談や保護者との連絡を密にとってもらっているが、保護者アンケートでは「学校の様子がわかる」と回答した割合が7割に届いておらず、発信や連絡についてあらためて取組をすすめるとよい。 |
|----------------------------|--|

6 次年度に向けた改善策

| | |
|---------------------|--|
| <p>教育活動についての改善策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの状況をよく観察し、情報を共有して個々に応じた支援・指導が実現できるよう、体制づくりが求められている。一人ひとりの生徒へのきめ細やかな対応を実践するという本校教職員の強みを生かしつつ、教職員どうしで協働しながら有機的に支え合える職場風土を醸成しなければならない。 ・個々の教職員においては、自身の授業力向上に向けた取組を継続し、学校全体で魅力ある授業づくりが進められるよう、教職員研修等資質向上の機会を増やしたい。 |
| <p>学校運営についての改善策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・少ない教職員数の中で、一部の教職員に業務負担が偏ることがないように、業務の精選と整理が必要である。その上で、会議の効率化や優先順位の明確化に努めたい。 |